

第3回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議【議事概要】

1. 開催の状況

- (1) 開催月日：令和7年2月3日（月）10:00～11:30
- (2) 開催場所：えびなこどもセンター 201 会議室
- (3) 出席者：13名

2. あいさつ

- 議長の伊藤教育長（海老名市教育委員会）より、今年度の主な成果について、様々な形で開催した「対話の場」において、多くの方との対話を通して多様な意見に触れることができたこと、また、市内各小学校がインクルーシブ教育についての研究にそれぞれ取り組み始めた旨、あいさつがあった。
- 花田教育長（神奈川県教育委員会）より、来年度も「対話の場」を様々な形で開催し対話を続けながら取組を進めていく必要があること、また、県民・市民、教職員、保護者、地域の皆様と一緒に考えるようなボトムアップ型の取組として進めていきたい旨、あいさつがあった。

3. 報告

(1) 対話の場（9月以降の取組）について【資料1】

- 事務局より、対話の場について、資料1に基づき、報告がなされた。

（主な意見）

- ・ 課題解決に向けて、小学校と中学校が連携して取り組む必要があるのではないか。
- ・ 県立高校の入学者選抜や各学校の取組は、ここ10年の改革で変わってきているので、中学生がその変化を実感できるような取組が必要ではないか。

(2) 外部評価について【資料2、資料2-2】

- 事務局より、外部評価について、資料2、資料2-2に基づき、報告がなされた。

4. 議題

(1) 次年度以降の推進計画について【資料3】

- 事務局より、次年度以降の推進計画について、資料3に基づき、説明がなされた。その後協議を行い、資料のとおり確定した。

（主な意見）

- ・ えびな支援学校でも教職員や保護者と対話の場を開催してはどうか。
- ・ 中学校では、生徒会など子どもからの発信で取組ができるのではないか。
- ・ より具体的な取組について発信があると、不安が少なくなっていくのではないか。
- ・ 様々な取組が始められているのであれば、発信の方法も検討するべきはないか。

- ・ 市内外の中高生とともに、インクルーシブな視点でこれからの学校について議論することもできるのではないかと。

(2) その他

- 今年度末を目途に、今後の取組の基本的な方向性や推進策のイメージ等を示していくことが確認された。

(主な意見)

- ・ 本取組における最終的なめざす姿に向かって取り組みつつ、市民や県民との対話の状況を踏まえ、適宜、推進策を見直していくような進め方がよいのではないかと。
 - ・ 今後の取組の基本的な方向性や推進策のイメージ等を示していく必要があるのではないかと。
- 全体を通じての意見交換がなされた。

(主な意見)

- ・ ソーシャルインクルージョンをめざしていくにあたっては、市長部局と連携した取組を計画していくべきではないかと。
- ・ 特別支援学校の教員が小・中学校の教育課程についても理解することで、居住地交流などで共に学ぶための工夫につながるのではないかと。

5. 事務連絡

- 令和7年度の第1回推進会議は、令和7年5月12日（月）に海老名市で実施予定

以上